

## 第2回 南河内基礎自治機能充実強化協議会 議事概要

【日時】令和8年3月27日（金）11：00～12：00

【場所】河南町役場 4階 大会議室

【出席者】山入端羽曳野市長、古川大阪狭山市長、田中太子町長、森田河南町長、菊井千早赤阪村長  
城間大阪府総務部市町村局長

### ■議事概要

●各テーマの検討状況を確認し、今後の方向性について以下のとおり確認・合意した。

- ・[インフラ（下水道等）の維持管理] 下水道に係る事務処理の共同化や施設の管理・運営の広域化等の取組について、近隣市も含め、流域市町村と大阪府で具体的な検討を行う。下水道以外の公共インフラについて、大阪府の「地域維持管理連携プラットフォーム」等の既存制度の活用や「事務の共同処理」等の導入について検討を進める。
- ・[観光等を軸とした地域活性化] 大阪はびきの観光局と連携して、観光魅力PRや観光コンテンツの創出などを検討する。南河内地域全体を見据えた地域活性化に向け、観光振興策の共同化をめざし、取組を深化・拡大させる。
- ・[市町村の将来のあり方] 大阪府の関係部局に対して、「めざすべき地域の未来像（案）」を踏まえた南河内地域の将来像となるビジョンの策定に向けて、本協議会と連携した取組の検討を求める。令和8年度は、大阪府の関係部局と連携し取り組むとともに、南河内地域全体を見据えた検討を継続する。

### ■出席者発言

●城間府市町村局長：

今年度は、下水道を中心としたインフラの維持管理、観光を軸とした地域活性化、市町村の将来のあり方について検討を行った。2町1村に羽曳野市、大阪狭山市も加わり、市の先進的な事例やノウハウを共有し、議論に活かすことができた。次年度も引き続き連携を密に行い、地域で同じ方向を向いて取り組んでいきたい。まずは今年度の取りまとめについて、資料全体に関する意見をいただきたい。

（令和7年度取組について）

●山入端羽曳野市長：

人口減少と少子高齢化に伴う人口構造の変化が想定される中、住民サービスの高度化・多様化による行政コスト、特に社会保障関連経費の増大という避けては通れない状況下であり、老朽化した公共施設やインフラ等の更新にかかるコストの他、対応に当たる専門職員の不足など、手をこまねいていても改善が見込めない課題に対する取組を少しでも前に進めていくために協議会に参加した。

これまで協議会の各部会において様々な検討がなされ、一定の方向性や具体的な取組が生まれてきている。このように、広域的な連携のもとで一歩ずつ前進していくことが大変重要だと考える。次年度も引き続き、基礎自治体が抱える諸課題の解決に向け、大阪府及び各市町村とともに取り組んでいきたい。

●古川大阪狭山市長：

人口減少の時代においては、縮小基調のなかで、まちづくり・行政サービスの質をどう高めていくかが重要。現時点では各市町村の取組を細かくとりまとめている段階だが、次のフェーズとしては2市2町1村で連携して具体的にどのような取組を行っていくのかという点が重要で、めざすべき地域の未来像案を踏まえた南河内地域の将来像をしっかりと作りあげていくことが大事だと思う。

今後は、ビジョン策定に合わせて、いつ頃までに将来像を整理していくのかというスケジュール感を共通認識として持ちたい。

●菊井千早赤阪村長：

協議会で様々な議論をしていることは人材育成にもつながるため、ありがたく思っている。引き続き、大阪府においてもリーダーシップを発揮しながら進めていただきたい。

各市町村の総合計画では、将来の目標とするキーワードはよく似ている。人口規模や財政規模等、様々な違いはあるものの、方向性としては、同じであると認識している。村の農業では羽曳野市の観光局と連携した販路拡大の事例も聞く。行政としても十分に情報共有をしながら、協議会を進めていきたい。

●田中太子町長：

今年度は市町村の課題の抽出、分析を行い、将来的な見通し・不安が改めて浮き彫りになった。基礎自治機能の強化という観点では、2市2町1村の枠組みの拡大を考えてもよいと思う。具体的には観光やフルーツなどの農産物が連携に適している。

また、大阪府では、基礎自治機能の充実・強化に向け特別委員会を設置して取り組まれており、副首都の話題がある中で、基礎自治のあり方について連携しながら議論を進めていきたい。

●森田河南町長：

2市2町1村の共通課題が見えてきた。資料でも、公共インフラや公共交通の問題がクローズアップされている。様々な課題がある中で、現在の住民サービス・行政サービスをどのように維持していくかが最も大きな課題である。今年度の議論を踏まえた広域連携やDXの取組についても次のステップとして積極的に参加していきたい。

●城間府市町村局長：

今後どのようにまちづくりをし、公共交通や行政サービスを維持していくかが共通の課題であり、そのために、広域連携を一步ずつ前進させていこうという意見がでた。縮小基調の中、目標やスケジュール感を持って、抽出した課題にしっかりと対応できるような具体的な取組を議論していきたい。

次に、各部会についてご意見を頂戴したい。

(各部会の取組について)

●古川大阪狭山市長：

特に下水道の議論においては、使用料の減収、施設の老朽化対策、技術職員の不足等の共通課題につ

いて、単体で取り組めるところもあれば、連携することで前進するものもあるので、検討していきたい。

国の方向性としても、広域化・共同化が言われており、広域連携が重要。例えば、流域下水との連携や協議会外の自治体とも連携していくことを今後の課題として取り組んでいきたい。

●森田河南町長：

人口減少により、下水道の使用料収入の減少、施設の老朽化、技術職の確保が課題。技術の継承も難しく、スケールメリットを生かした連携が必要になる。下水道の維持管理は効率化の意味でも共同でやるのが大切。

●山入端羽曳野市長：

太子町と協力して幹事をさせていただき、観光関連の議論をした。先程菊井村長からも紹介いただいた、大阪はびきの観光局を中心にぶどう、いちごの販路拡大や、民間企業と商品開発を行った。我々のまちの唯一無二の歴史、特産品等を強みとして活かしていくため、大阪府とも連携しながら、強化を図っていきたい。今年度は大阪・関西万博もあり、それぞれのまちの魅力も発信ができた。また、観光局の新たな取組として、るるぶで南河内地域を冊子にし、府内のホテルに配架している。

今、食の大切さがクローズアップされている。今後も府と連携しながら、農業政策を充実していきたい。

●田中太子町長：

南河内地域は素晴らしい歴史遺産が沢山あるということが魅力。羽曳野市は観光局を作られて、南河内地域を引っ張っていただけると期待している。我々もしっかりと連携しながらこの地域を盛り上げていきたい。

●菊井千早赤阪村長：

少子高齢化で財政状況が大変厳しい中、連携できるところからやっていく必要がある。協議会に参加していない団体との連携も必要。参画していない団体へ情報提供しながら、積極的に連携できたらと考える。

●城間市町村局長：

下水道は、人材確保の課題、特に技術職が確保できない中で技術継承が問題になっている。今後は地域の下水道事業の円滑化に繋がる取組を行っていきたい。

観光に関しては、食がポイント。地域の特産物を有効に活かしながら取り組んでいきたい。

市町村の将来のあり方は、人口減少で財政も厳しくなる。本協議会における連携を強化し、近隣市へも情報提供しながら、さらなる連携を図っていけたら。

今日いただいた意見を事務局の方でまとめて、来年度の協議会のテーマを、今年度の継続する部分と、また新たなテーマを設定する部分と、関連付けたテーマ等で案を作成し、相談しながら来年度進めていきたいと思う。